

# つながり

奈良県立ろう学校 特別支援部  
2019年 7月号

聴覚障害者からのメッセージ第3弾として、一側性難聴の方であり元京都市立二条中学校の難聴学級教諭でいらした高井先生にご寄稿いただきました。一側性難聴は片耳が正常であるため、支援の必要性に気付かれにくい状況に陥りやすいと言われています。今回は、高井先生のご経験や難聴児教育に関わっておられる皆様にお伝えしたいことをお話いただきました。

## 「一側性難聴～私の経験と周囲の大人へ伝えたいこと～」

高井小織先生（京都光華女子大学医療福祉学科言語聴覚専攻 准教授）

友達2、3人とランチに行くとき。店に入ってさっと見回します。空いているテーブル、混み具合、BGMや話し声。適当な場所を表情で了解し合うと、「私、ここに座ってもいい？」と声をかけて、友達よりも先に自分の席を決めます。私は左耳が聞こえないので、右側に友達が座ってスムーズに会話を楽しめるように、素早く判断して了解を得る。初対面の人がいれば「ごめんなさい、私左耳が聞こえないから、ここでいい？」と話す。…大人になってようやく自然に身についた処し方です。



私は小学校入学前の検診で左耳の難聴を発見されましたが、原因はわからないままでした。親に連れられて病院を回った記憶はぼんやりとありますが、片耳が聞こえないことを不便だと思ったことはそれほどありません。同じ部屋に寝ていた親のいびきがうるさいときに、聞こえる右耳を枕に押しつけて寝ると便利だ、と思っていたことは覚えています。

車道が左側で、母の右手と私の左手をつないで歩くとき、何度も「えっ、えっ？」と右の耳を向けて聞き返してしまいます。「そんなに何度も聞き返すのはみっともないけえ、やめんさい」とよく言われました。子供心に、みっともないなら耳のことを言わないにこしたことはない、と思い始めました。



聴覚障がいには外見からは見えにくい障がいの一つです。私は左の耳に補聴器もつけていないので、人から気がつかれることは全くありません。右耳は小さな音も聞こえるし、歌も歌えます。学校でのスクリーニング聴力検査でも、検査者のちょっとした視線をみたり、予測をつけたりしてボタンを押すことでほとんど通過してしまいました。

中学時代は部活でバスケットをしていましたが、背もそれほど高くないので真ん中を走ってボールを回す役でした。右の方向にはシュッとパスが出せるけど、左にはちょっと苦手というか、遅くなります。結局レギュラーになれず、高校1年で部活自体に挫折したのですが、それを自分の中では左耳のせいにしてしまいました。本当は厳しい練習が嫌だった、というだけだったのに。



大学に入って、初めて聞こえない友達に出会います。彼女Aさんは大学の授業がわからないという大きな壁をなんとかしようとしていました。高校までの教科書や問題集のある教科学習からうってかわり、大学では階段教室で人数も多く、教科書もなくマイクでぼそぼそとしゃべるだけの90分の講義。今と違ってパワーポイントや視覚資料も何もない時代でした。

Aさんは周囲の学生に働きかけ始めました。50人という小さな学部でそのうち女子が12、3人。下宿をしていたこと、流行りの心理学には興味があまりなかったこと、などの共通点があってかなり早い段階で、彼女とつきあい始めました。週に1度夜の彼女の下宿に集まり、



手話を覚え、大学と交渉し、ノートテイクや手話通訳を始めました。この時に初めて、私も自分の左耳のことを自然に周囲に言うようになりました。ここから始めて、結局私もこの「業界」に足をつっこんだのですから人生は面白いなあと思います。そして、この時の出会いは大きかった、と改めて感じています。

「一側性難聴」について、私の経験から特徴を挙げてみます。

### \* 音の方向がわからない

耳が左右に二つあるのは、どこから音がしているか、という方向を自然に察知するためです。**音源定位**とも言います。私が授業をするとき、生徒や学生に「発言するときは手を挙げるとか合図をしてくださいね」と頼むことがあります。これは声の質だけでは誰が話しているかわかりにくいからです。

音の方向性は、危険回避とも関係があります。道を歩いている、車などの音がどこから来るのかわかりにくいのです。一緒に歩いている人が「危ない！」と腕を引張ってくれることも何度もありました。



### \* 雑音が不快

授業中など、特に私語などの「雑音」はなんとなく落ち着きません。どの授業でも最初にこのことをはっきり言って協力を求めることにしています。**体育館のざわざわの中、エコーがかかっているようなマイクでわんわんしゃべられるととても聞きづらくなります。**

笑い話ですが、この典型が「宴会」。友人とビールやワインを片手におしゃべりするのは大好きなのですが、大勢の宴会で多数のグループの会話に的確に入るのは苦手です。私の宴会パターンは右隣に座る人をターゲットにして、**とにかく一対一の関係にしてしまうこと。**飽きたら（失礼）その方を解放して次の方を呼び・・または、宴たけなわになると席を自分で移動してねらった人の左に座ってまた一対一の会話を続ける・・というはた迷惑なパターンのです。



少し聴覚障がい全般についても話題を広げます。

### 明るく「自己開示」するとは・・・

私は教師という仕事から、左から声をかけられて気がつかないと「無視された」と誤解されることが最も心苦しいことの一つです。だから周囲とのコミュニケーションを考えると、明るく「自己開示」しておきたい、と思います。

冒頭のランチの場面や、授業を始める時。「左耳が聞こえません」だけを伝えるのではなく、「**こっちに座るね**」とか「**手を挙げてください**」と、**どうすればよいかの具体的な方法をはっきりと示すことを心がけます。**状況や相手によって言葉や伝え方を変えることも大事なことです。バスケットをしていた頃、「隠せるものなら言わなくていい」と思っていた私が、なんとなくうまく折り合いをつけられるようになったきっかけは、前述の聞こえないAさんとの出会いでした。現在、様々な聴力の中高生を支援する立場になり、あらためてそのあたりの共通するポイントはなんだろうと考えています。



障がいについての正しい知識をもつことはもちろんですが、それだけでは「伝える力」にはなりません。一つには、**相手や状況の中で、どのような言葉でどのように伝えるかという言葉の力**が必要でしょう。言語の運用力とでもいえばいいのでしょうか。「聞こえたふりをしないで『聞こえません。もう一度言ってください』って言ったらいいのよ」と聴覚障がいのある子どもに、先生がよく言います。でも、これもワンパターンで解決するようなものではないことは、子ども達が一番よく知っています。

相手や状況に合わせるモードチェンジ力というのは、単に語彙や文法ではなく、ランチや会議やデートの時に実際に言葉を使う力です。

もう一つは、自分に対する内なる自信とでもいうものでしょうか。それを支えるのが「あなたがそれを言ってもいいのだ」という関係性の中での承認でもあります。これは自分一人でつけることができるものではなく、相手や仲間の存在に関わってきます。私はAさんと出会って、この仲間の中で「私の左耳のことも言えるんだ」と思い始めました。と同時に自分から集団や相手に関わっていく姿勢ができたのだらうと思います。

親・家族から始まり、だんだんと人間関係を広げていく思春期以降。自ら選んだ集団の中で、自分が承認され、お互いを尊重する経験を積み重ねてほしいものです。

## おわりに・・・



一側性難聴は新生児聴覚スクリーニングで超早期に鑑別・診断される数が増えてきました。学校のスクリーニングでは厳密につかめないところもありますが、軽中等度難聴と一側性難聴をあわせると、中規模の学校であれば一人いる、という割合です。

聞こえないか聞こえるかで分類されると「聞こえる」側になるのでしょうか。英語のリスニング試験は、放送音源が良耳側にあるほうが望ましいですが、音声で受けることができます。私は自分が高校から合唱を続けていることもあり、音楽も好きです。微妙なハーモニーもわかります。ただ、モノとステレオの違いはわかりません。

現在、聴覚障がいの療育教育については、様々な実践や理論があり、なかなかナショナルスタンダードが見つけにくいのも現状です。その中で、大事なことは「聞こえる世界」と「聞こえない世界」が対立してあるのではなく、聴覚障がいはスペクトラム（連続体）であることや、それぞれの人の「聞こえにくさ」はその障がいの見えにくさと重なり合っている、という視点をもつことだと思います。

先生方や保護者に・・・というか、私のかつての「母」という意味もこめて伝えたいこと。「あなたはあなたの要求を口にしてもいいんだよ」ということを書いてあげてください。「何でも聞き返してもいいよ」と。私とあなたとのつながりの中で、お互いに豊かなコミュニケーションを求めたいと思います。



## ～筆者の自己紹介～

高井小織先生(京都光華女子大学医療福祉学科言語聴覚専攻 准教授)

のべ26年間、京都市立二条中学校難聴学級担任(国語科担当)後、現職5年目。現在も卒業生を中心に、聴覚障がいのある思春期以降の若者との対話を大切に考えています。月に2度ほど「通信ことのは」を配信。幅広い話題の中で、聴覚障がいのある若者の実像を伝え、つなぐことやエールを送ることを続けています。メールまたは郵送での配信をご希望の方は、連絡先を明記の上、下記までご連絡くださいませ。

メール：[s-takai@mail.koka.ac.jp](mailto:s-takai@mail.koka.ac.jp)

郵送：615-0882 京都市右京区西京極葛野町38京都光華女子大(切手代のみ必要)



「通信ことのは」には、聴覚障がいを持つ若者たちの声が盛りだくさん。担当されているお子さんや保護者の方に、こんな先輩たちがいるよ、大学や社会で活躍しているよと紹介できるきっかけにもなりますし、きこえにくい子どもたちが将来生きていくためにどんな力を身につけていくべきか考えさせられる良い内容にもなっています。ご興味のある方はどうぞ。



高井先生のお話、いかがでしたでしょうか。

きこえない・きこえにくいお子さんを担当しておられる先生方、保護者の方には、ぜひ成人の聴覚障がいのある方と積極的に関わったり話を聞いていただいたりしながら、彼らが学校生活でどのように感じて成長し、社会人としてどのように工夫しながら活躍されているのかを知っていただけたらと思っています。そして、それらのことをきこえない・きこえにくい子どもたちに伝えてほしいです。子どもたちには、同じ仲間からしか学べない工夫や生き方、考え方もたくさんあります。

この会報の名前にもあるように、担当者・保護者・当事者の皆様がよりつながっていけるよう、教育相談や研修会をはじめ情報発信等、県内のセンター校として、一層の充実に努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。  
(文責 椿野)

## 7月8月の予定

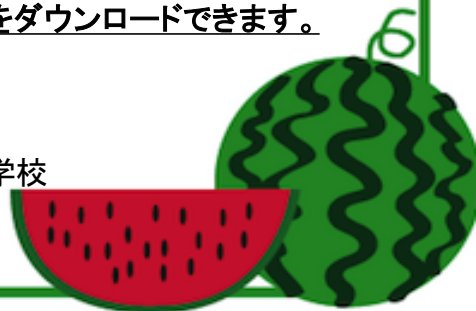
7月23日(火)～30日(火) 夏期補聴相談

7月29日(月) 全難言協 近畿ブロック兵庫大会  
会場：神戸市立盲学校 神戸市立湊小学校

8月22日(木) R元年度第2回担当者研究会「夏の講座」  
講演 西垣正展先生(滋賀県立聾話学校 教諭)  
「きこえにくい自分に気付くことの大切さ」  
～聴覚障害者として主体的に生きる力を育てるために～

※ まだ申込可能です。本校HPから申込書をダウンロードできます。

8月20日(火)～21日(水) 近畿オージオロジー研究協議会  
「夏の講演・講習会」  
会場：大阪府立生野聴覚支援学校  
ホテルアウィーナ大阪



## 集まれ！中高生 夏の交流会

日時 令和元年8月23日(金)  
場所 奈良県立ろう学校 本館3階 会議室  
対象 奈良県在住の難聴がある中高生  
内容 ミニ講座「聴覚障害について知ろう」  
フリートーク 「大学生と一緒に楽しく話そう！」

※ 本校HPからも申込書をダウンロードできるようになりました。

地域に在籍するきこえない・きこえにくい子どもたちへの支援について、もっと詳しくお知りになりたいことやご相談等がありましたら、本校の特別支援部(早期・幼稚部 吉田、小学部以上 田中)までご連絡ください。より良い手立てを一緒に考えていきましょう。



奈良県立ろう学校 TEL 0743-56-2921  
FAX 0743-56-8833